



・Call

第68号

2017年(平成29年)9月

い・Callとは…

イコール(平等)を意味し、『い』には「意見・意志のある人達」が、『Call』には「呼びかけ合い男女共同参画社会を作ろう」との思いが込められています。



「男で○、女で○、共同作業で◎」 H29年度 男女共同参画キャッチフレーズ

●contents●

- 「おとう飯(はん)始めよう」キャンペーン
- 「男女共同参画講演会」のご案内
- 企業訪問その④「株式会社 丸八製茶場」

加賀市ホームページ(男女共同参画係)



石川県ホームページ(男女共同参画課)



(株)丸八製茶場は、平成24年度に「いしかわ男女共同参画推進宣言企業」に認定されています。宣言企業として応募した動機や社員とのコミュニケーション方法について丸谷社長に伺いました。

発行 加賀市役所 地域づくり推進課
男女共同参画係

☎0761(72)7836

「おとう飯始めよう」「キッチンキャンペーン」実施中!

内閣府男女共同参画局では、子育て世代の男性の家事、中でも「ご飯を作る」ことへの参画促進を目的とした「おとう飯(はん)」始めよう」キャンペーンを実施しています。

日本のお父さんは仕事しすぎ?

6歳未満の子どもを持つ夫と妻の1日あたりの家事・育児に関わる時間はどのくらいだと思いますか?

日本では、妻が7時間41分、夫は1時間7分です。その逆だよという家庭もあるかもしれませんが、あくまで平均値のお話し。それにしても、妻が1日の三分の一近くを家事育児に費やしているのに対し、夫はわずか1時間ほど。日本のお父さんは、欧米諸国と比べても家事育児に関わる時間がかかなり短い状況となっています(平成23年社会生活基本調査)。

お父さん、まずは厨房に入ろう!

国の「第4次男女共同参画基本計画」には、夫の家事育児に関わる時間を、現状の1時間7分から平成32年までに2時間30分とする数値目標が掲げられています。

また、内閣府に設置された「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会」は、「家事や育児等に対する知識などの不足と男女間のギャップ」が問題だと指摘しています。

これらを踏まえて始められたのが、「おとう飯(はん)」始めよう」キャンペーン。子育て世代の男性の家事・育児、中でも料理への参画を促そうというのが狙いです。



内閣府キャンペーンページ



『働き方』と『暮らし方』の両方大事

『おとう飯』には、「これまで料理できないと思っていたあなた、立派な料理を作らなければいけない!」と思っていただきた。『おとう飯』ならいいんです! 簡単に手間を掛けず、多少見た目が悪くても美味しければいいんです」とのメッセージが添えられています。

キャンペーンでは「おとう飯大使」として、6歳の娘と2歳の息子を持ち、育児に関する民間資格も複数取得しているお笑いコンビ「イシバシハマ」の石橋尊久(たかひさ)さんが任命されています。

厨房に入る前に長時間労働を是正してほしいという声もあるかと思いますが、国では働き方改革についても取り組みを進めています。『働き方』の反対側にあるのは『暮らし方』で、両方を同時に進めていかなければなりません。

その暮らし方改革のひとつが夫の家事参加。今の暮らしにちよっぴり良い変化が生まれるとしたら、家族のために、やってみようかなと思いませんか。



講演会のご案内

日本は今、超高齢社会に突入しようとしています。わずか8年後の二〇二五年には、団塊の世代が75歳以上となり、5人に1人が75歳以上、3人に1人が65歳以上になるとの予測があります。そして、高齢者のひとり暮らし世帯も、現在より著しく増加すると言われています。

今は「おひとりさま」の人たちも、いずれは「おひとりさま」になる日が来ます。

人生百年時代。長い老後に目標を据え、「おひとりさま」になったその時に、慌てず騒がず、自立した生活を送り、自分らしい毎日を過ごしていくための知恵と工夫について、ソフトとハードの両面からお話しさせていただきます。

ぜひ、ご参加ください。

男女共同参画講演会

いつかは「おひとりさま」

～その時 自分らしく暮らすために～



10月14日(土) 13:30～15:00

市民会館 3階 大ホール

講師 **中澤まゆみ 氏**

入場無料

※手話通訳・要約筆記あり

問合せ 加賀市役所 地域づくり推進課

男女共同参画係

TEL 0761-72-7836

◆講師プロフィール◆

1949年長野県生まれ。雑誌編集者を経てノンフィクション・ライターに。

インタビュー、ルポ（現地報告）を中心に、執筆活動を行う。アジア、アフリカ、アメリカなど海外取材を通じ、異文化交流と移民、マイノリティ（社会的少数者）問題をテーマにしてきたが、友人の介護を通して医療、福祉、介護関係の取材や執筆を積極的に行うようになる。

取材執筆のかたわら、全国で講演活動を続け、在住する世田谷区では、介護家族や住民目線でのシンポジウムや講座を開催。住民を含め、多職種が連携して運営するケアコミュニティカフェ「せたカフェ」も主宰する。

最新刊は、東京新聞で2年に渡り連載したコラムを中心にまとめた『おひとりさまの介護はじめ55話』、『おひとりさまでも最後まで在宅』（いずれも築地書館）など。

会社の様子どんなんけ？ 企業訪問その④

という姿勢で臨んでいます。

今回は、いしかわ男女共同参

画推進宣言企業として認定を受けている、(株)丸八製茶場の丸谷誠慶(まさちか)社長を訪ねました。

—いしかわ男女共同参画推進宣言企業の制度がスタートした平成24年に申請してみようと思われたきっかけは何ですか？

県の方から勧められたのが直接のきっかけです。翌年、現会長から社長の職を引き継ぐことになるのですが、女性が多い職場だけに、そういうことも考えていかなければならないと思っていたので、まずは手始めに応募してみようと思いました。



気さくにお話しくださる丸谷社長

—社員は何人いらっしゃいますか？

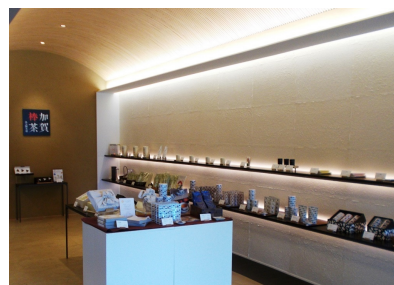
役員やパートを除き、女性31人、男性11人の計42人で、圧倒的に女性が多いです。そのうち工場など製造関連の部署では比較的男性は多いものの、男女同数くらいですね。

—喫茶や店舗での販売スタッフという女性イメージが強いですが。

二十数年前に喫茶を始めた頃は男性客が多かったのですが、女性スタッフの方が受けが良かったのかもしれないですね。しかし、今は女性客が多く、一人で来店される方もいる。男性スタッフを増やしたいのですが、なかなか応募がありません。今年7月にオープンした品川駅の店舗には、男性スタッフがい人います。

—富山、東京と県外にも店舗展開なさっていますが、遠隔地の社員にも目配りするのは難しいのでは？

苦勞してます(笑)。人を教育する術を学んだわけではないので難しい。まずは、社員の声はすべて聞く



余白の美を感じさせるお洒落な店内

—社長に意見を言うって、新人社員にはハードルが高そうですが、何か工夫されていることはありますか。

ベテラン、新人、年齢などに関係なく、やってみたいこと、気付いたことなど、自由に意見を言い合えるような雰囲気づくりをしています。

—出た意見はどうなさっていますか。

〇〇をやってみたいという意見があれば、会社として応援します。その代わり、発言者がリーダーとなり、自分で店舗や部署を超えて仲間を集め、企画を進めていきます。

—実現した企画はありますか？

今月、「食堂プロジェクト」を実施しました。本社に食堂があるので

が、食べる物も食べる時間もバラバラ。社員全員で、一番いい食材を使った昼食を食べようという企画でした。全部手作りで社員にも好評でした。

—費用は会社持ちで、自分がやりたいことを実現できるのはいいですね。

プロジェクトとして採用するのは、珍しさや面白さがあるものです。そんなアイデアを発想するには、柔軟な頭と視点が必要で、それらを社員に持つてもらいたいという思いから始めました。また、プロジェクトを進めるには今の業務のやり方を工夫し、時間も作り出さないとできません。頭を使わないといけない。頭を使わずにできる作業なら、ロボットでもできると社員には言っています。

—人工知能などIT技術の進化で世の中はどんどん変化しています。

はい。ただ、どんなに世の中が変わっても、日本茶を含む伝統的な和食文化は百年後も残したい。私だけだけでなく、社員にも食に携わる者として、昔ながらの調味料や食材への意識を持ち続けてほしいですね。

—ありがとうございます。